

第70回

# 日本皮膚科学会西部支部学術大会 スイーツセミナー2



開催日程：2018年11月10日(土)～11日(日)

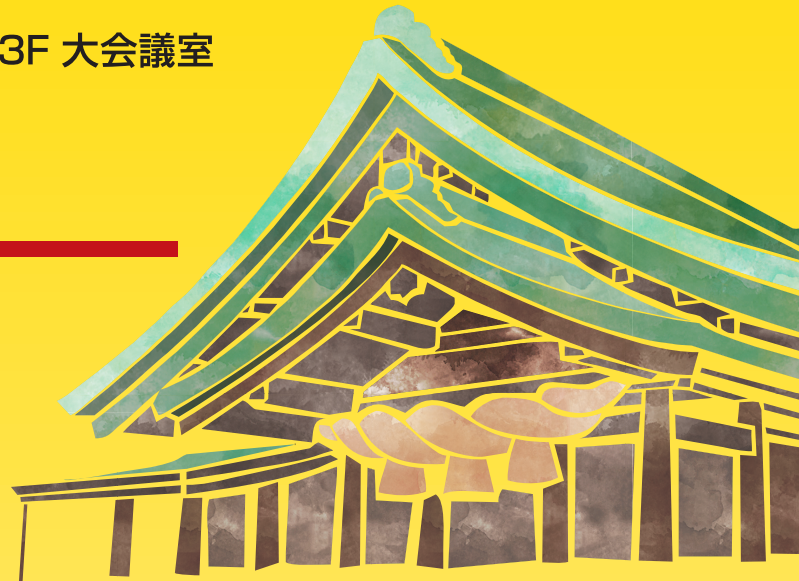
開催場所：島根県民会館

会 長：森田 栄伸 先生 (島根大学医学部 皮膚科学 教授)

**日時** 2018年11月10日(土) 16:00～16:50

**会場** B会場 島根県民会館 3F 大会議室  
島根県松江市殿町158

## 爪白癬



座長

鳥取大学医学部  
感覚運動医学講座 皮膚病態学分野

教授 山元 修先生

演題1

### 『爪白癬のダーモスコープ所見』

講師

帝京大学ちば総合医療センター  
皮膚科

准教授 佐藤 友隆先生

演題2

### 『爪白癬の診療経験』

講師

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科  
皮膚病態学分野

准教授 竹中 基先生

## 演題 1

## 『爪白癬のダーモスコピー所見』

帝京大学ちば総合医療センター  
皮膚科

准教授 佐藤 友隆先生

爪白癬の正確な診断の為に最も重要なのはKOH直接鏡検である。爪真菌症の臨床病型は主にdistal and lateral subungual onychomycosis: DLSO、proximal subungual onychomycosis: PSO、superficial white onychomycosis: SWO、total dystrophic onychomycosis: TDOがある。最近DLSOにおいてはDermoscopyの有用性が報告されている。具体的なダーモスコピー所見としては、爪甲を上から観察する所見として 1) longitudinal striae of different colors、2) jagged proximal edges、爪甲を遠位から観察する所見として3) subungual hyperkeratosis、4) fermented soybeans rollがある。しかしKOH直接鏡検がなければ確定診断には至らない。今回は爪白癬にダニの虫体、虫卵の混在を認めた症例を通じてKOH直接鏡検の重要性とカビとダニの関係を見直してみたい。

## 演題 2

## 『爪白癬の診療経験』

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科  
皮膚病態学分野

准教授 竹中 基先生

爪真菌症の原因菌を長崎大学での同定結果から検討したところ、成書に記載されているように、*Tricophyton rubrum*が最も多く、次いで、*Tricophyton mentagrophytes*、*Candida sp.*であり、その他の糸状菌はほとんど検出されなかった。しかし、爪白癬として培養同定した症例のうち、雑菌や菌陰性のため原因菌が同定できなかった症例が71.7%~82.3%であり、爪真菌症での原因菌の同定の困難さが再認識された。長崎大学病院皮膚科・アレルギー科では、爪白癬のみで受診する患者はほとんど皆無であるが、糖尿病や膠原病など他疾患に合併する爪白癬を診察することが多い。現在、そのような症例において、エフィナコナゾール爪外用液の有効性について、経時的に検討しているが、1年間の外用継続で、不変群、軽快群、著効・治癒群に分類された。いずれの群も、外用3カ月の時点では、その効果に著変はなかった。しかし、著効・治癒群は外用6カ月時に、いずれも50~60%の罹患面積の減少が認められた。現在更なる検討を行っており、その結果について報告したい。今までの内服治療についても、文献的考察を行ったので、報告したい。